５　過去の提案等取組状況

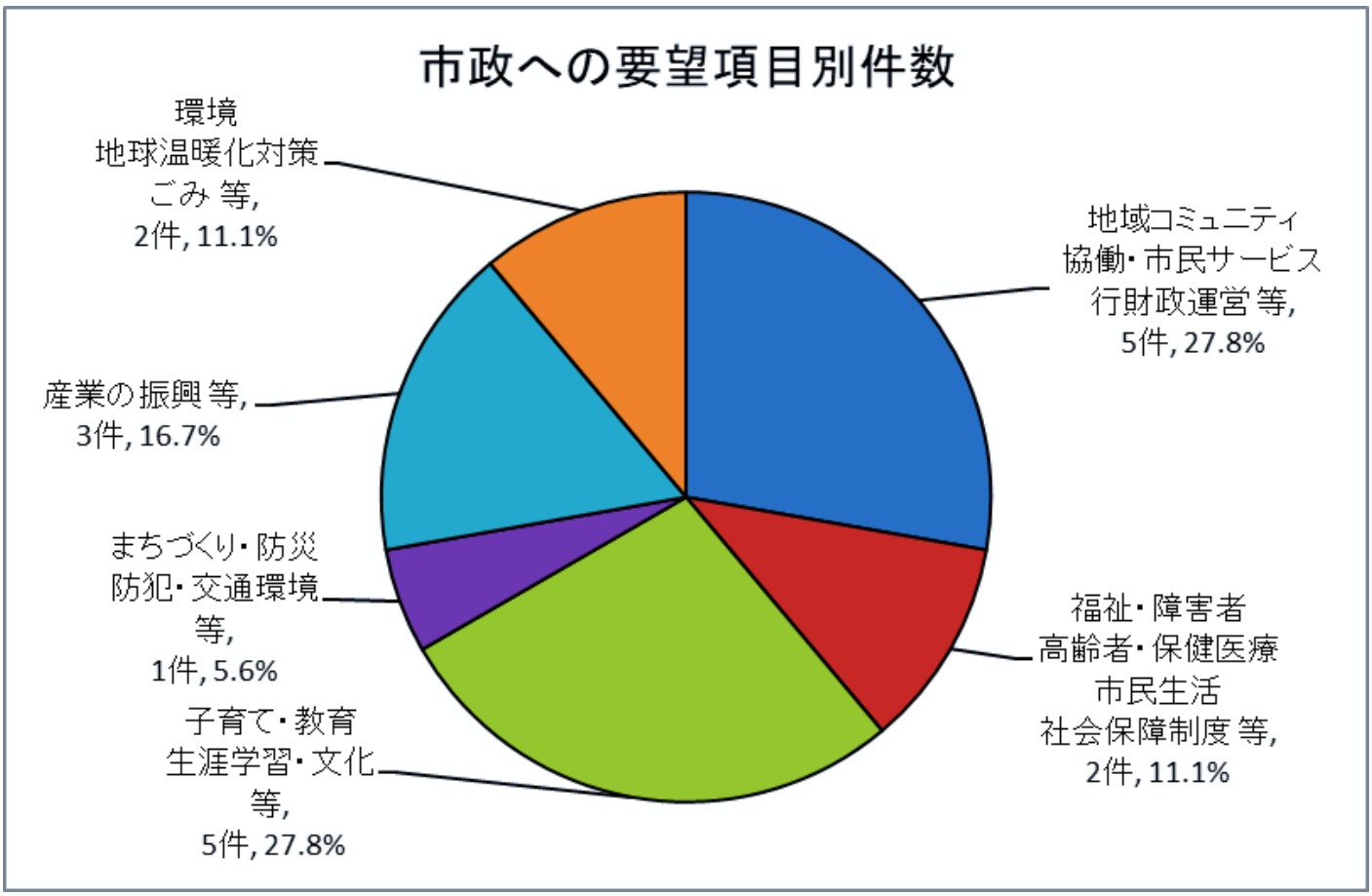
令和４年度（2022 年度）「市長と語る」の提案等取組状況

開催実績　テーマ：「私が行っている八王子の地域づくり」

（単位：人）

開催日	会　場	テーマ	発言者数
8月 21 日	WEB による開催	「私が考える未来の八王子」	9

※　視聴用サテライト会場：八王子駅南口事務所（先着20名）



次ページから、令和４年度（2022 年度）の「市長と語る」でいただいたご意見・ご提案とその後の取組状況の一例をご紹介します。

令和４年度（2022 年度）「市長と語る」でいただいた
ご意見・ご提案と市の対応状況（一例）

＜意見＞　「大栗川キャンドルリバーによる地域おこし活動」について

大栗川キャンドルリバーは、由木エリアの子どもたちに「自分たちの地元は八王子なんだ。すてきな街なんだ」と、大人になっても思ってもらいたいと思い、住民で 2015 年から始めたイベント。自主参加であるため、人が集まりにくいこと、八王子市の緑道等の使用許可が複雑と感じていること、完全ボランティア活動のため近隣企業から募る協賛金の資金面が毎年の課題となっている。

≪市長発言（当日）≫

大栗川キャンドルリバーのように多くの方を魅了する美しい風景は、まちへの「誇り」「愛着」「共感」をもち、まちのために自ら関わっていこうとする気持ちであるシビックプライドの醸成につながる活動だと考えている。

人が集まりにくいという課題については、学園都市である本市の強みを生かして、由木地域の大学の学生に呼びかけることができれば、交流の場にもなると思う。

公園、緑道の使用許可の手続きは、市の公園課、公園の指定管理者へ申請いただくほか、東京都の南多摩西部建設事務所との協議が必要ですが、市への申請は、指定管理者分と合わせて公園課で一括して申請を受けることができる。

資金面の課題については、様々な民間企業や公益法人が地域活動に対する助成金等を設けているが「八王子コミュニティ活動応援サイト　はちコミねっと」には民間企業などが実施している助成金等の情報を掲載しているので、参考にしてほしい。

【その後の対応】

人が集まりにくいという課題については、広報はちおうじ令和４年 12 月 15 日号に掲載し、情報を発信した。

使用許可申請の手続きについては、指定管理者分と合わせて公園課で一括して受付を行い、申請の簡素化を図った。

資金面の課題については、「令和５年度市民企画事業補助金」補助対象事業募集について案内した。

＜意見＞　「里山の活動・文化再生活動」について

　みなみ野自然塾の活動を始めて今年で 25 年を迎え、公園アドプト制度の下、市と協働して栃谷戸公園と宇津貫緑地を拠点として活動している。活動のモットーは「楽しむことを第一に」。それが、私たちの暮らすまちづくりにつながると考えている。

　その原風景を市と協働して私たちの手でつくっていく。これまでの歴史、文化、技を引き継ぎ、楽しむことを第一に今を生き、そして未来を始める。市民の多彩な活動の輪が、互いに支え合いながら、さらなる八王子の魅力をつくり出していければと思っている。

≪市長発言（当日）≫

　環境教育・環境学習の推進には、様々な関係者の皆さんとの協力が必要。市では、市民・事業者、及び環境保全団体等と連携し、環境学習施設であるエコひろばを中心とした環境教育・環境学習の拠点の構築に取り組んでいる。また、子どもたちが自然の大切さを学べるよう、総合的な学習の時間を利用した体験型の「みどりの学習」を小・中学校向けに行っている。そのほか、里山の活動においては、人材育成の必要性が高まっているので、緑地の保全を行う人材育成事業について検討している。さらに、自然、環境等に関わっている団体等のネットワークを広げていくとともに、相互の活動情報を共有する場をつくることで、各団体の連携や課題解決につなげていけるよう支援していきたい。

【その後の対応】

**　令和５年度から新たに緑地・里山の管理を主体的に行う知識・技術を身に着けた「里山レンジャーズ」として活躍する人材を育成するための講座「緑地保全人材育成講習」を実施。連続講座で年間を通じ全６回。**